

採点の質を確保するための方策(スピーキング)

試験名	採点者の応募資格	採点者の選出基準	採点者の質の向上策	採点体制	面接者の応募資格 (対面式のみ)	面接者の選出基準 (対面式のみ)
ケンブリッジ英語検定	<p>スピーキング試験官(以下、SE)の主な資格要件(抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則学士号を有していること ・教授資格(TESOL等)を有していること ・指導歴3年(1,800時間)以上で指導現場から離れていないこと* *卓越した指導歴を保證する推薦状など、学士号、教授資格のいずれかを有していなくとも可能な場合あり <p>・英語が非母語話者(Non-native)の場合、評価するレベルより2つ以上のCEFRレベルの英語力を有していることも要件の一つ 例)A2 Keyの場合はB2以上、B1 Preliminaryの場合はC1以上の英語力を有していることが条件</p> <p>※なお、「ケンブリッジ英語検定の試験官になるには」(Become a Cambridge English examiner: 英語ページ)には資格要件等の情報が公表されています。 https://www.cambridgeenglish.org/teaching-english/professional-development/become-a-cambridge-english-examiner/</p>	<p>(英語が非母語話者の場合)トレーナー(Team Leader、以下、TL)による電話インタビューでトレーニングに必要な英語運用力があると判断された場合</p> <p>(オンラインで自習)事前トレーニングを行っていること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・申請が承認されると、Webポータル上のトレーニング資料が提供され、採点方法を理解する。 ・事前トレーニング・最初のアクセスから30日以内に認証テストに合格する必要あり。 <p>↓</p> <p>(対面式)SE養成トレーニング積極的にトレーニングに参画し、トレーニングを通じて正しい評価スキルを身に付けた方</p> <p>↓</p> <p>(対面式)認証トレーニング実技トレーニングの実施。正しい評価ができていないか、再度チェックし、その結果TLが合格と判断した方</p>	<p>有資格者は認定後も1年に1回SE認証トレーニングに参加し、2年に1回モニタリングを受ける</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プロフェッショナルな試験官チーム編成 SEのパフォーマンスはチーム・リーダー(TL: Team Leaders)が監督し、さらにチームリーダーはProfessional Support Leader (PSL) および Regional Team Leader (RTL)によって管理される。 ・オンライン試験官管理システム オンライン試験官管理システム(Online Examiner Management System)と評価スペシャリストポータルサイト(Assessment Specialist Portal)でライティングおよびスピーキングの全試験官を管理。 <p>※試験官2名と受検者2名で行うペア型スピーキングテスト。試験官2名のうち、1名は質問役と全体評価。もう1名は評価基準ごとに評価を行い、会話に加わることはない。試験官とのやり取りだけでなく、受検者同士のやり取りも評価の対象となる。</p>	<p>・ケンブリッジ英語検定はすべて対面式であるため、採点者＝面接者。</p>	<p>・ケンブリッジ英語検定はすべて対面式であるため、採点者＝面接者。</p>
IELTS	<p><資格> 学士号又は修士号保持者かつTEFL/TESOLなどの有資格者</p> <p><英語教授歴> 16歳以上の英語を母国語としない学習者を対象とする英語指導歴3年以上またはそれに相当する指導歴を有する</p> <p><人間性、対人スキル> 面接などにより基準を満たした人物であること</p>	<p>・面接・トレーニング・試験の結果が世界共通基準を上回り、かつ採点者として公平かつ正確に言語能力を測定することができるかと判断されたもの</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得後も適宜トレーナーによるモニタリングを実施し、必要に応じて補習、研修などのサポートを提供しているため、世界標準に則した採点の質を担保している。 ・資格は2年に1度、研修受講後に更新試験を受け、合格した場合のみ採点官の資格更新ができる。 ・資格取得後であっても採点官として適性がないと判断に至った場合、直ちに資格を停止し、場合によっては試験官としての資格を再度得る権利も失う。 ・採点官は規定に従い、期間が開くことなく定期的に採点を行い、採点基準への理解を深め、質を一定に保っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・採点は面接官が行う。 ・スピーキングテストは録音され必要に応じて上級採点官によりモニタリングを受ける。 ・面接官は、事前に受験者の中に既知の人がいないかどうかを運営担当者と確認をする。 	<p>採点者と同一</p>	<p>採点者と同一</p>
TOEFL iBTテスト	<p>学士もしくはそれ以上の学位を取得し、高校、大学、または成人学習においてESL教育経験を持つ者</p>	<p>ETSの採点者トレーニングを受け試験に合格すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、採点当日に行われるチェックテストに合格しなければ採点は行えない。 ・採点リーダーが、常に各採点者の採点の正確性について監視している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・採点は、スコアの安全性や整合性を保証するため、テスト実施国・地域ごとではなく、採点ネットワークを通じて一元的に行われる。 ・3～6名の採点者による採点。 ・受験者の出身国限定ではなく、多様な採点者で構成。 ・客観的な採点を行うため、回答以外の受験者の情報は採点者に提供されない。 	<p>-</p>	<p>-</p>

試験名	採点者の応募資格	採点者の選出基準	採点者の質の向上策	採点体制	面接者の応募資格 (対面式のみ)	面接者の選出基準 (対面式のみ)
GTEC	英語力と採点力を見極める独自の筆記試験および面接等を課し、ベネッセが定める選定評価基準に合格できた者。	英語力と採点力を見極める独自の筆記試験および面接等を課し、ベネッセが定める選定評価基準に合格できた者のみ選抜。更に研修を行い、修了テストで合格した者を選抜。	採点者個々に対し、定期的にベネッセの基準作成者・品質管理者が直接トレーニングや採点品質チェックを行い、モニタリングを行っている。	・採点センター内では、採点者、採点リーダー、採点監督者、品質管理者など品質担保が可能な組織体制を構築。 ・常に1つの解答を2名で採点。採点が異なる場合は上位の採点者が採点を確定する方式を採用。このことにより、公平・公正な採点を担保している。	-	-
TEAP	英語力を証明する資格や英語教育に関する経験などを条件としている。	採用前トレーニングと採用テストを課し、一定水準を上回り、採点者として適切と判断されること。	・各回次で実際に出題する問題を使ったトレーニングを全採点者対象に行う。 ・予め基準となる採点を付与した答案を全採点者に採点させ、基準との差異が大きい採点者を採点業務から外す。 ・基準との差異が大きくない場合でも、採点の傾向を分析し、必要に応じてフィードバックを行う。	・採点を2名で行い、採点結果に差があった場合は、採点経験が豊富な採点者による再採点を行う。	採点者と同様	採点者と同様
TEAP CBT	英語力を証明する資格や英語教育に関する経験などを条件としている。	採用前トレーニングと採用テストを課し、一定水準を上回り、採点者として適切と判断されること。	・各回次で実際に出題する問題を使ったトレーニングを全採点者対象に行う。 ・予め基準となる採点を付与した答案を全採点者に採点させ、基準との差異が大きい採点者を採点業務から外す。 ・基準との差異が大きくない場合でも、採点の傾向を分析し、必要に応じてフィードバックを行う。	・各受験者の解答を出題される問題単位で分割し、複数の採点者に割り当てて採点を行う。 ・各受験者の答案は最低2名で採点し、2名の採点結果に大きな差異があった場合は、採点経験が豊富な採点者による再採点を行う。	-	-
英検CBT	英語力を証明する資格や英語教育に関する経験などを条件としている。	採用前トレーニングと採用テストを課し、一定水準を上回り、採点者として適切と判断されること。	・各回次で実際に出題する問題を使ったトレーニングを全採点者対象に行う。 ・予め基準となる採点を付与した答案を全採点者に採点させ、基準との差異が大きい採点者を採点業務から外す。 ・基準との差異が大きくない場合でも、採点の傾向を分析し、必要に応じてフィードバックを行う。	必要と判断された答案には、採点経験が豊富な採点者による再採点を行う。	-	-
英検2020 1 day S-CBT	英語力を証明する資格や英語教育に関する経験などを条件としている。	採用前トレーニングと採用テストを課し、一定水準を上回り、採点者として適切と判断されること。	・各回次で実際に出題する問題を使ったトレーニングを全採点者対象に行う。 ・予め基準となる採点を付与した答案を全採点者に採点させ、基準との差異が大きい採点者を採点業務から外す。 ・基準との差異が大きくない場合でも、採点の傾向を分析し、必要に応じてフィードバックを行う。	必要と判断された答案には、採点経験が豊富な採点者による再採点を行う。	-	-
英検2020 2 days S-Interview	英語力を証明する資格や英語教育に関する経験などを条件としている。	採用前トレーニングと採用テストを課し、一定水準を上回り、採点者として適切と判断されること。	・各回次で実際に出題する問題を使ったトレーニングを全採点者対象に行う。 ・予め基準となる採点を付与した答案を全採点者に採点させ、基準との差異が大きい採点者を採点業務から外す。 ・基準との差異が大きくない場合でも、採点の傾向を分析し、必要に応じてフィードバックを行う。	面接官は受験者の現在所属の高等学校を避けた上で、さらに万全を期し、その面接官だけでなく複数の採点者も採点する。	採点者と同様	採点者と同様

※本資料については、各試験実施主体からの回答をもとに、文部科学省でとりまとめたものとなります。